

課題解決支援講座に関わって

地域づくりアドバイザー | 多良 淳二 さん

はじめに

これまで「地域づくり等の支援講座」に多く携わってきましたが、1回のみの講座で終わるのが一般的でした。内容は事例の紹介や提案等で、深くかかわることができません。しかし、今回の課題解決支援講座は、主催地の自主的意欲があることや、市町行政と公民館とアバンセの3者協働による取り組みであること、3～4回の連続講座であることが特長的でした。体験型やワークショップも取り入れ、実践活動と振り返りまで丁寧に取り組むことができます。事前準備の打ち合わせから回を重ねていくプロセスは、スタッフや参加者共にスキルアップにもつながる画期的な企画だったと思います。

この講座に、講師として複数回関わり私自身も大変勉強になりました。

地域の課題とは

少子高齢化社会の加速化がもたらす人口構造の変化、地球温暖化現象による気候変動や様々な生活環境の変化、デジタル社会やコロナ禍による生活様式の変化、格差社会が偏在化する一方で、SDGsの取り組みが提唱される等目まぐるしく時代は変化しています。これらの課題は、私たちの身近な社会や地域の課題とも密接に繋がっています。共通課題もあれば、地域によっては様々であり、さらに課題同士が複雑に絡み合っています。だから、一つの課題を解決しようと思っても簡単に解決できません。地域課題を俯瞰的に捉える視点も必要です。

課題の解決策として

私たちは、地域社会に対して関心を持ち、危機感と問題意識を持つことが重要です。他人事ではなく自分事として捉え、「課題発見力」を養い、地域ぐるみで共有し、解決策への行動を起こすことが求められています。

そのきっかけの手助けになるのが、今回の講座の取り組みであったかと思われます。

印象に残っていること

講座を開催する時は、スタッフや参加者の皆さんも緊張し不安げな様子ですが、回を重ねることによって、気心が知れ本音で意見が言い合えたことに、参画意識の満足度も上がります。最後は実践体験で盛り上がり、経験できたことが自信に繋がり、達成感が得られます。次回は自分たちで、もっと工夫して、やってみようとする意欲が芽生えたことです。改めて、参加者の皆さんが「自分の可能性」や「人と人の結びつき」の大切さを考えるきっかけにもなりました。

今後の課題

地域の課題に関心を持つ住民の意識向上をどう図るか。それらを纏める地域リーダーとマネジメントできる人材の育成及び後継者づくり。個人や活動団体が機能する環境づくりとネットワークの構築、人財データの収集と活用、気軽に交流や活動のできる拠点作りも必要です。

最後に

前述の課題を解決するためには、地域のコミュニティーセンターとしての拠点である公民館の存在意義は大きく、重要な役割を担っています。困ったときの窓口相談所としてのプラットフォームになる頼れる存在です。市町行政の理解と協力体制も欠かせません。アバンセの役割として、佐賀県内の市町や公民館との連携を密にした、ネットワークの構築と県行政との連携によるバックアップ支援体制の構築も必要です。この三者が連携して取り組む課題解決支援講座は有意義であり、今後も必要かと思われます。

PROFILE.

1975年佐賀銀行入行。その後、佐賀銀行文化財回事務局長を務めながら、地域づくりの支援に奔走。吉野ヶ里町在住。



地域とともに作り上げる課題解決支援講座

NPO法人唐津市子育て支援情報センター センター長 | 山口 ひろみ さん

公民館の役割とは

唐津で「課題解決支援講座が始まる」と聞いたのが、2016年度(平成28年度)で、ワクワク・ドキドキ感からのスタートでした。

実施されていく中で、参加者や公民館、地域の声などを聞き、この講座を通して地域のつながりを作ることが分かり、また公民館職員の学びになっていることを知りました。地域の拠点としてだけではなく、公民館の役割の大切さを再認識し、住民間のきずなの仕組みを作っていくことも大切だと実感しました。

唐津市での課題解決支援講座の取り組み

成和公民館を皮切りに、唐津でも講座の実施や開催を希望する公民館が増えました。現場にいる公民館職員も日々どのように公民館の運営を行ったらよいか、住民のつながりや社会的きずなを作っていくにはどうしたらよいかなどを悩んでいました。私もそういう声を聞く機会があり、この講座で知りたい、学びたいという思いも多かったのではないのでしょうか。

私も最初は見守っているだけでしたが、徐々に講座に関わっていく中で、この講座が公民館職員だけではなく、アバンセや市町職員の大きな学びにもなっていることを知りました。とても印象的だったのが、常にアバンセ職員が公民館職員と一緒に悩み、考え、行動していたことです。講座の打ち合わせ、計画、実施まで寄り添い、講座を具現化していました。その様子を見て、何かお手伝いできるのではないかと思い、関わらせて頂きました。

最初は分からないままのスタートでしたが、地域を知る、理解することから始めることで、この地域に何が必要なのか少しずつ見え、たくさんのアイデアが出てきました。みんなでたくさん悩み、考えている時の表情が生き生きとしていたことを今でもはっきりと覚えています。

さらに、講座が進むにつれ、住民の意識が変わったことを感じるようになりました。最初は、参加のみだった住民も、応援者、協力者、そして共に活動へとつながっていきました。

地域課題解決とは、住民がいかに地域を支え、盛り上げるかが重要であり、公民館がそのための連携の拠点、参画・協働の場としての役割があると思います。学びからつながり広がることで、住民が主体性となり、地域社会づくりの役割に貢献するきっかけとなるのではないのでしょうか。

この講座では、地域の人みんなで悩む姿、対話する姿、楽しそうな姿などを見ることができました。住民が互いに学び合い、つながり、交流することから、安心して暮らせる地域へつながっていくと思います。さらに嬉しいことに講座後も住民主体で、地域活動を実施できるようになってきたことです。

これからの公民館の在り方

10年間、多くの公民館等で講座が展開されるようになりました。たくさんの学びがあり、たくさんの出会い、つながりがあったかと思っています。講座の中で見つかった課題を次回に活かして計画・実施につなげました。私も関わり、見守れたことがとても嬉しく思います。私自身が多くの学びとなりました。

これからますます公民館の重要性を感じています。この地域課題解決支援講座が、佐賀県社会教育のプラットフォーム整備につながると強く感じています。これからもひとりひとりが笑顔いっぱいになれる地域を目指していきたいです。

PROFILE.

看護や児童福祉等を学び、2004年から現職。家庭教育支援の立場から地域の課題解決にアプローチ。唐津市在住。



公民館職員の立場からみる課題解決支援講座

佐賀市立北川副公民館 | 鶴 ちふみ さん

地域に寄り添う公民館職員を目指して

課題解決支援講座は、公民館の現場にいる職員の視野を広げてくれたと感じています。

公民館は社会教育法第20条に明記されるように、単なる貸館的な施設ではなく、地域住民の日常生活に密着し、住民自治や住民主体の活動を支援し、「つどい・まなび・つなぐ」役割があるとされてきました。

生涯学習の推進や少子高齢化社会の到来という時代の流れを経て、近年では地域コミュニティなど、住民自治の主体性を育むことへの重要性はさらに高まっています。地域づくりに関する学びの場を充実させるために公民館職員がより身近な存在として地域に寄り添うことは時代の必然ではないでしょうか。

課題解決支援講座をやってみて

平成24年度に、当時勤務をしていた公民館がアバンセの課題解決支援講座に参加申込を行い、本講座に携わりました。

当時は地域課題についての理解は薄く、ただ地域活動を積極的にやってくれるボランティアの育成がしたいという公民館側の事情がありました。講座は公民館職員の勘と経験で企画した趣味教養的な内容が多く、地域課題はボランティアの育成だと思い込んでいたのです。とりあえずのスタートでしたが、講座を複数回の連続にして、アバンセ職員や講師からのアドバイスも含めて内容を熟議していくと、PDCAサイクルが生まれ、だんだんと参加者の考えが可視化できたことは大きな手応えになりました。講座を実践するプロセスで地域住民の本音や思い、交流の大切さを感じたことが次へのステップへ向かう動機になった気がします。また、講座ごとに振り返りを含めたニュースレターを発信できたこともよかったと思います。

公民館職員の務めとは

あれから10年になりますが、その後、県内の様々な地域で課題解決支援講座が展開されてきました。異動でいくつかの公民館を経験しましたが、地域の課題といってもそれを発見することは容易ではなく、市町の様々な部署や地域団体、NPOなどたくさんの関係機関とネットワークを形成し、情報の共有を図ることが大切だと思います。また、公民館職員は「よき事例に学べ」と言われますが、他館の課題解決支援講座を知ることで、まち歩きやグループワークの手法や地域での合意形成への導き方など参考になることが多く、職員のスキルアップに効果がありました。

地域の課題を発見するのも解決するのも公民館ではなく、そこで暮らす人たちであってほしいです。そのためには地域活動を行う団体や住民に対し、一堂に会して対話する場、交流する場を提案し、地域についての情報共有や課題の掘り起こしができれば、地域コミュニティへの気運を高めることができるのではないのでしょうか。

令和に入り、新型コロナウイルス感染症の拡大は、公民館に「集えない」という新たな試練を与えましたが、デジタル化やIT環境の整備などの取り組みも進んでいます。Withコロナ時代へ公民館を取り巻く環境が変化しても公民館職員は、視野を広く、地域の情報を収集し、提供し、つながりが持続するように、地域住民のよき理解者、伴走者であることに何の変わりもないと思っています。

PROFILE.

2007年から佐賀市の公民館職員として勤務。循誘、本庄、勤興公民館を経て、2020年より現職。佐賀市在住。



課題解決支援講座の委託者として

佐賀県県民環境部まなび課 生涯学習・体験担当係長 | 須貝 遊 さん

課題解決支援講座の目的

本県は、佐賀県立生涯学習センター（以下「アバンセ」）を「佐賀県の生涯学習・社会教育の中核施設」と位置づけ、事業を委託しています。特に人材育成に力を注いでおり、その中でも課題解決支援講座（以下「本講座」）は最も重視している事業のひとつです。公民館等職員、市町職員、アバンセ職員の3者が協働し、地域住民が安全・安心・快適なコミュニティ生活を送るため、地域の課題へ対処できる能力と意欲を身につけることを目的としています。

本講座は、講義や住民の意見出しのワークショップ等によって、住民自らが地域の課題を考え、解決していくための知識や手法を学習する機会を提供するものです。

また、課題のテーマに即した講座のプロセスを通して、公民館等職員、市町職員が、自分の地域や住民のことをさらに知ること、地域独自の講座に関する企画力、運営力のスキルアップを図ることも、本講座の大きな目的の一つです。

課題の熟考と自分事化

各地域で課題を決定するにあたって「これは誰の課題なのか」を常に意識し、公民館等職員、市町職員、必要な場合には関係団体の役員も加わり、何度も事前の打ち合わせをして一緒に課題を掘り下げた上で、講座を開催します。

行政課題として一過性のブームで終わることなく、参加者が話し合い、課題を共有し、専門家の意見を聞き、地域を歩き、自分たちの生活や地域に落とし込んでいく。その学びの過程で、住民同士が深く知り合い、親交を結び、協働して「同じ地域の住民」になっていくことこそ、社会教育の姿であり、「学びを通じた地域づくり、人づくり」を体現していると言えるでしょう。講座の時間が終わったにもかかわらず

「次は何をしようか」とにぎやかに話し込みなかなか帰らない参加者の姿が見られると、講座が成功に向かって進んでいると感じます。

講座の真価・深化・進化

講座自体は地域づくりや人づくりの始まりであり、きっかけに過ぎません。本講座に参加された方がそれぞれの立場で、学んだこと、考えたこと、触れたこと、培ったことを地域で活かすことで真価を発揮し、広がり、深化していきます。

「とにかく何かしたかった。モヤモヤをなんとかしたかったから応募した」

課題解決支援講座を実際に経験し、現在も様々な事業に取り組まれている社会教育施設の職員からこの言葉を聞き、感銘を受けました。社会教育に携わる方々の真摯な想いに応えられることの喜びはひとしおです。

10年前は参加市町を募るのも難しかった本講座ですが、学ばれ、経験された方々の実践や口コミのおかげで現在では多数の応募をいただいています。学んだ方々、参加した方々他を数えると1,000人以上の方々が関わっており、佐賀県の生涯学習・社会教育をそれぞれの地域で支えてくださっています。

近年、地縁団体の弱体化をはじめ、社会教育が隘路に立っていることが指摘されています。自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響が続く今こそ、社会教育の学びの姿勢と学びの成果は重要なのではないのでしょうか。

今後、本講座が進化し、より複雑化していく地域課題に取り組むための支えとなるよう期待しています。

PROFILE.

県内中学校教諭を経て、2019年から現職。社会教育主事。佐賀県社会教育委員の会議提言書を取りまとめた。鳥栖市在住。

